

今に受け継がれる

東京銀器

金属の性質を知り、その魅力をひきだす技



葛飾区伝統工芸士

講師 西山 慎二氏



◆講師プロフィール◆

昭和二十七年、東京銀器における鍛金を生業とする銀器職人の家に生まれる。中学卒業後は、父の三郎氏に弟子入りをし、都立工芸高校金属工芸科に通い、様々な技法について学び、卒業後はさらにその道に巧みになり、ジュエリー関連の会社勤務を経て独立。葛飾区高砂に工房「夢雲」を構える。金や銀・銅に関するあらゆる技術を駆使し、独特の感性で意欲的に創作を続ける。

東京銀器とは？

主に東京都で製作されている金属加工品。原材料の銀は、その加工のしやすさから古来より様々な日用品に用いられてきたが、江戸の職人の技によって洗練された銀器は、日本を代表する伝統工芸品として広く世界中で愛されている。

東京銀器の特徴は、銀の持つ独特な輝きと見事な職人技によって施され生み出される優美な表情にある。

日時 令和6年11月24日(日)

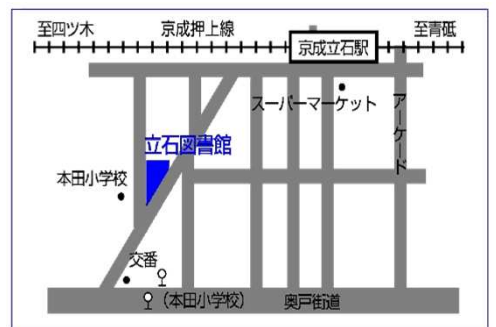
午後2時～3時30分 (開場：午後1時30分)

会場 立石図書館 2階 研修室

定員 40人 (事前申込 先着順)

申込方法 10月29日(火) 午前9時から受付開始

立石図書館の電話か3階カウンター (受付は午前9時から午後8時まで)、
または、電子申請でお申し込みください。



電子申請はこちらから

参加費
無料